

令和2年度 四国中央市総合教育会議議事録

【日 時】 令和3年2月1日（月）午後1時30分～

【場 所】 四国中央市役所5階大会議室

- 【次 第】
- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 協議事項
「書道パフォーマンス甲子園の今後の展望について」
 - 4 その他
 - 5 閉会

【出席者】

（構成員） 四国中央市長 篠原 実
四国中央市教育委員会
教育長 東 誠
教育委員 篠原祥子（教育長職務代理者）
教育委員 篠原 理
教育委員 石川 卓
教育委員 星川光代

（構成員以外） 市長部局
坂上副市長
宮崎総務部長
教育委員会事務局
眞鍋教育参与
石川教育管理部長 古川教育指導部長
森実教育総務課長 窪田生涯学習課長
田邊文化・スポーツ振興課長 渡邊学校教育課長
（事務局） 総務調整課 3名

【傍聴者】 なし

【報道機関】 1社

1 開会

（事務局）

只今より、令和2年度四国中央市総合教育会議を開会いたします。

なお、この会議は原則公開することとなっております。本日は傍聴を許可しておりますので、ご了承ください。

合わせまして、委員の皆様にあらかじめご確認させていただきます。報道機関より撮影の申し出がありましたので、冒頭の5分間、撮影にご協力いただいでよろしいでしょうか。

ご異議がないようですので、そのようにさせていただきます。

それでは、開会にあたりまして、篠原市長よりごあいさつをお願いいたします。

2 市長あいさつ

(市長)

本日はお忙しい中ご参集賜り誠にありがとうございます。本市でも新型コロナウイルス感染症の感染者が確認され、新年3日から新型コロナウイルス対策本部会議を開催して約1カ月間にわたり対応に当たってまいりました。感染された皆様の一日も早い回復を心から祈念しています。

さて、学校現場においては、これまで準備してきたGIGAスクール構想を推し進め、インターネットのクラウドサービスを利用して、子どもたちの学びに生かしていきたいと考えております。併せて、近年では先生方の働き方に注目が集まっておりますから、GIGAスクール構想の実現で少しでも負担が減ることを願っております。この構想が却って先生方の負担にならないよう、協力していかねばならないと思っております。実現にあたっては膨大な労力、予算が必要となりますが、コロナ禍で休校になったとしても学力の低下などに不安を感じることはないよう、GIGAスクール構想を早く実現していただきたいと思っております。

本日の議題は書道パフォーマンス甲子園の今後の展望についてです。昨年は、新型コロナウイルスの影響で残念ながら開催に至りませんでした。来年度以降、より充実した大会にするため、ご助言よろしく申し上げます。

3 協議事項

【テーマ】書道パフォーマンス甲子園の今後の展望について

(市長)

協議事項について、教育長から説明を願います。

(教育長)

はじめに市長、教育委員各位におかれましては、貴重なお時間を頂きありがとうございます。また、市長には日ごろより教育行政の推進にご理解ご協力を賜るとともに、新型コロナウイルスの学校への影響を常にご心配いただき、様々なご助言、心配りに感謝申し上げます。

さて、本日ご協議いただきます書道パフォーマンス甲子園の今後の展望について、提案理由をご説明します。

全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会いわゆる「書道パフォーマンス甲子園」は、平成20年7月に開催し、今年度13回目を迎えました。

本大会開催の目的は、「日本一の紙のまち四国中央市」を対外的にPRしていくことがまず挙げられますが、それ以外にも「全国の高校書道部の書に対する意欲の向上」や「高校生のための大会づくり」など本市文化振興及び教育的観点も高いことから、第2回大会から文化振興所管課も大会運営に携わり、第4回大会からは、教育委員会の全体事業として取り組んでまいりました。

おかげさまをもちまして、第1回大会では3校の応募だったものが、第12回では106校にまで増加し、これまで延べ709校7,089人の高校生が参加する、まさに全国に誇るべき大会へと成長しました。

そのような中、昨年の第13回大会は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止という苦渋の決断を下さなければなりませんでした。大会を目指し、二度と戻らない3年間の尊い青春を書道パフォーマンスに賭けてきた高校生たちのやりきれなさ、悔しさは計り知れないものだったと思います。

しかし、このままで終わりにたくないという気持ちは担当者も同じで、高校生の皆様の思いに応えるため文化・スポーツ振興課の書道パフォーマンス甲子園振興室が中心となり、代替事業を実施いたしました。

愛媛新聞の「伊予弁」のコーナーを室長が執筆していた期間がありましたが、その中の室長のことばで「私たちが開く大会は選手や関係者にとってまさに夢の舞台。プレッシャーはとても大きいですが、一方で夢に応えるため使命感も湧き起こる。大会中止に伴う冊子の作成や動画配信の代替事業。単なる思い出作りではなく、青春を懸けた選手の輝きと書に込めた思いが伝わる夢の舞台にしてみせる。」とありました。これまで室長を中心に全国大会として築き上げてきた書道パフォーマンスの存在を衰退させてはならないという強い思いもあったと思います。応募いただいた作品は市内各所に展示し、多くの方にご覧いただくことも出来ました。今年度は例年のようにはいかなかったけれども、これまで見えなかった手法も見えてきたように思います。これまで

は本戦に出場した学校のパフォーマンスしか見ることはできませんでしたが、冊子や映像を通じて全国の高校生の姿、作品を見ることができ、全国からの熱量もさらに伝わってきたように思います。

本日の総合教育会議におきましては、それらの状況も踏まえながら、今年開催の第14回大会、節目となる第15回大会、そして第20回記念大会の姿について、皆様からご意見をいただき、今後の展望を探る機会になればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(文化・スポーツ振興課長)

それでは、書道パフォーマンス甲子園の現況や課題について述べさせていただきます。

スライドを用意いたしましたのでご覧ください。

まず、改めて申し上げるのも恐縮でございますが、書道パフォーマンスとは、音楽に合わせて踊りなど趣向を凝らしたパフォーマンスとともに大きな紙に揮毫するもので、当市では平成13年頃に三島高校が書のデモンストレーションとして行ったのが始まりでございます。

それを高校生の大会として始めたものが「書道パフォーマンス甲子園」でございます。平成20年7月に第1回大会が開催され今年で14回目を迎えます。

その目的ですが、5つございます。1つ目は先ほど教育長が述べましたように、日本一の紙のまち四国中央市のPR、2つ目は新文化の創造発展・書を通じた伝統文化の地域間交流、3つ目は紙産業の振興・地域の活性化、4つ目は全国の書道部に属する高校生の意欲向上、5つ目は高校による高校生のための大会づくりでございます。

平成22年に映画「書道ガールズ！！私たちの甲子園」が全国公開されたのを機にさらに知名度が高まり、第1回は3校で始まった大会も第12回では106校にまで増えました。

また、近年発生した大規模自然災害により被災した高校生や地域の方々の活力になればという思いから、復興支援枠として被災地域の高校生たちを招待いたしました。

このような取り組みが評価され、平成30年には「戦後愛媛のイノベーション30選」に選ばれております。

令和元年には、川之江・三島高校の書道部が「ジャカルタ日本祭り」に招待され、当市の文化を海外に紹介いたしました。

そのような中、今年度第13回大会を準備しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止という苦渋の決断を下しました。

しかしながら、悲しみに暮れる高校生たちに青春の一ページを残してあげたい、そして今回の中止で大会の熱意が冷めないように代替事業を実施いたしました。

この事業への募集を行ったところ、活動が困難な状況にも関わらず全国33都道府県87校1654名の高校生から応募を頂きました。

それでは、代替事業についてご説明申し上げます。

1つ目が冊子作成です。コロナ禍で学校が休校するなど制約が多い中でありながら、83校が参加してくれました。

2つ目が演技動画の配信です。77校が参加いただき、第13回大会に予定していた演技動画やテーマを決めたオリジナル動画計120作品を特設サイトで公開いたしました。

ここで、その動画作品をご覧いただけたらと思います。

～スライド視聴～

この動画は、事務局においてあらかじめ音楽とテーマを設定し、書道パフォーマンスを募集したものでございます。音楽はMrs. GREEN APPLE「僕のこと」、テーマは「凧と、前を向いて」です。全ての学校が同じ音楽でパフォーマンスを行ったものを事務局で編集し1曲の音楽が流れる中で40校の演技を繋げたものです。このような取組みはコロナ禍だからこそ生まれた新たな発想によるものであり、全国の学校が映像でコラボレーションしたものとして、各学校からは大変好評をいただきました。

また、8月下旬から市内19か所において34校の書道パフォーマンス作品を展示し、現在も展示可能な場所では継続しております。

さらに、今回はオリジナルグッズを記念品として参加した生徒たち全員にお渡ししました。代替事業ではありましたが、高校生活の良き思い出として心に刻み込まれたものと確信しております。

来年度は令和3年7月25日（日）の開催を決定いたしました。大会組織運営についてもご覧の体制で臨んでまいります。（実行委員会、四国中央市、教育委員会、紙まつり実行委員会）来年度大会の特徴としては、今年度出場できなかった生徒たちが参加できる方策として「19歳の部」を創設し、本日から募集を開始しております。

つづいて、今後の目標及び課題でございます。

1点目は来年度大会のコロナ禍における開催手法でございます。これは今後実行委員会でも協議してまいります。本日の皆さま方のご意見などを参考にさせていただきたいと思っております。

2点目は第15回大会に向けて150校の参加を目指すということでございます。これは、当市総合計画に掲げている目標で、実現に向けた具体的方策などについてご意見を賜れたらと思います。

3点目は第20回記念大会に向けての発展についてです。書道パフォーマンス甲子園が全国的なイベントとしてこれまで以上に飛躍できるよう、様々な方策を検討する必要があると考えているところです。

この3点について委員の皆さま方にご意見を賜ればと思います。どうぞよろしくお

願います。

(市長)

委員の皆様からご意見はありませんでしょうか。

(篠原理委員)

第14回書道パフォーマンス甲子園大会は、令和3年7月25日日曜日に開催決定と伺っております。しかしながら、終息に向かうとみられていた新型コロナウイルス感染症は、残念ながら、未だ終息には至っておらず、現時点では、昨年より状況は良くないと思われます。

そのような中ではありますが、次年度は、是非とも開催に向けて協議を重ねてほしいと思います。昨年の代替事業における冊子や作品などからは、高校生のこの大会に懸ける意気込みが伝わってきました。昨年のような思いは、子どもたちには決してさせたくありません。開催する方法として、一つは会場での開催、そしてもう一つは会場外での開催が考えられます。

まず、会場での開催について意見を述べさせていただきます。この場合は、感染防止対策の徹底が重要となるため、観客・選手・スタッフの視点から考えてみました。

観客については、ソーシャルディスタンスの確保・体温確認・消毒などを徹底しなければならず、十分な検証をしたうえでなお課題が解決できない場合には、残念ながら無観客ということも考えられると思います。

選手については、全国から集まってくる高校生の体調管理の徹底、宿泊や移動についての検討も必要となってきます。特に会場の控室は、今のままではソーシャルディスタンスの確保などは困難だと聞いておりますので、新たな方策の検討が必要であると思います。また、演舞の方法などにも制限をかけなければならないかとも思います。

スタッフについてですが、例年市内3高校の生徒たちがボランティアとして100名以上が参加してくれています。その子どもたちの安心・安全の確保は重要です。日常の体調管理も含め、早い段階から感染予防対策をしておく必要があると思います。

そこで、会場開催が不可能な場合、インターネットなどを活用した会場外での開催も視野に入れておくべきだと思います。会場外での開催についてですが、昨年行った映像配信の手法を応用し、本戦出場校の映像を配信することでその評価を行えるのではないかと思います。具体的な手法を是非検討してほしいと思います。

また、昨年同様に学校が休校となり、部活動が出来ない場合も想定されます。この場合は、単純に大会中止とするのではなく、適切な代替事業を検討してもらいたいと思います。先ほども触れましたが、第13回大会の代替事業として実行委員会が手掛けた冊子は、日本一の紙のまちである四国中央市を舞台とする書道パフォーマンス甲子園の魅力がぎっしり詰まった本に仕上がっており、大変好評を博しております。実際私自身もこの出来栄えには感心させられました。大会開催の有無に拘わらず、昨年に

引き続き、是非作成してほしいと思います。

いずれにしても、一生に一度しかない10代の子どもたちに良い思い出が残せますよう、前向きに取り組んでいただきたいと思います。

(市長)

文化・スポーツ振興課から意見はありますか。

(文化・スポーツ振興課長)

ご提言ありがとうございます。頂いたご意見を実行委員会にも諮りながら、大会を開催する前提で前向きに進めていきたいと思っています。

(市長)

私としては、現在の状況でワクチンが劇的に効き、感染者が激減するとは考えにくいのではないかと考えております。従来のように開催できない可能性もあるということ念頭に置き、知恵を絞って複数の方法を検討する必要がありますでしょう。

イベントなどの開催の判断にあたり、昨年から考慮してきたことは実施場所が屋外か屋内かということです。この感染症は専門家によっても捉え方が異なり、未知数の部分も多いですが、屋外よりも屋内においては換気などに相当配慮しなければならないと考えております。コロナ禍でも開催を決断した事業はいくつかありますが、終了から2週間が経つまでは本当に気が気ではありませんでした。特に悩んだのは、1月の成人式です。12月半ばまでは開催を目指していましたが、参加する方々やそのご家族からは心配の声が多数寄せられました。感染拡大地域の大学に進学している子どもを帰省させてもいいのか、2週間の健康観察をしたくてもその時間がないといった内容です。関係者の安心安全や全国で感染が拡大している状況などを総合的に考慮し1月の開催は断念しましたが、できるだけ早期に開催したいと思っています。

書道パフォーマンス甲子園については、今年開催できたとしても、例年どおり体育館で実施すると子どもたちが非常に密になることを懸念しております。関係者の中に陽性者がいるとは思いますが、無症状の感染者が多いのがこのウイルスの恐ろしいところです。何百人もの関係者の体調管理をするのは相当困難だと思いますが、それでも開催するのであれば知恵を絞らなければならないと思います。何でも中止するのは簡単ですが、コロナ禍でも前を向いて進んでいくために、これまでもいくつかの事業は開催を決断してきました。昨年のような代替事業以外に、他に案はありますか。

(文化・スポーツ振興課長)

今後、実行委員会でも具体的に協議しますが、無観客での開催や、子ども達の密を避けるためリレー方式での入場、各地域からの映像配信など、担当課で知恵を出しているところです。これらの方式での開催が困難であれば、昨年のような方式での開催を検討しています。

(市長)

安心と安全が確保されなければ、他県の高校は参加を断念することもあるでしょうから、不安を払拭できる策を講じなければなりません。

ほかにご意見はありませんか。

(篠原祥子委員)

コロナに関しては私も不安で、順番がきたらきちんとワクチンを接種しようと思っています。

これまで毎年「書道パフォーマンス甲子園」の大会を見させていただきましたが、パフォーマンスのレベルが年々上がっているなどか、高校生のボランティアと教育委員会の人たち総出での運営が大変だなど、目に見える事だけを捉えていました。

第13回大会の中止は本当に残念でしたが、テレビの特集や代替事業の冊子を見て、大会出場するための練習、努力、部員間のチームワーク、何より大会出場に懸ける思いが伝わり、「書道パフォーマンス甲子園」の重みと責任を感じました。今までは本戦に出場した高校の作品しか見ることはできませんでしたが、冊子を作成することによって参加した全ての高校の作品を見ることだけでなく、学校紹介もあり、特に、作品のテーマに込めたコメントからは高校生の熱い思いと意気込みが読みとれました。

冊子作成には、実行委員会や事務局の並々ならぬ苦労や大きな負担があったと思いますが、予選敗退校を含め、大会に参加した高校生一人ひとりの思い出になると思うので、大会の開催の有無に関わらず今後も継続してほしいと思いました。動画発信と冊子発行は、参加校を増やす手立ての一つにもなると思います。

また、競書大会で一生懸命書道をしている子どもたちにも、地元高校書道部の活躍する姿を見せてあげたいと思いました。書道部の活躍を知ることによって新入生の入部に大きく影響すると思いますし、入部が増えれば部活動の活性化にもつながると思います。書道パフォーマンス甲子園の常連校の中には、書道部とパフォーマンスに専念しているパフォーマンス部と2つある高校もあります。そんな中、地元高校では生徒数が減少し、部員の確保にも苦労していると聞いています。小中学校や地域の書道塾のサポートを得て、部員が増えるように支援するとか、大道具作成チームのようなものを結成しパフォーマンスに集中できる環境を作ってあげるというような、地域の支援も地元高校のためには必要なのかなと感じています。地元高校が納得のいく形でということにはなりますが、「地元枠」や「エキシビジョン」などで大会に参加できれば、地元の応援や期待に応えられるのではないのでしょうか。

(市長)

他にありませんか。

(石川卓委員)

世界中が混とんとしている中で、どういう状況で行えるかというのは判断が難しい

ですが、置かれた状況の中で精いっぱい大会を盛り上げていってほしいと思います。

そこで、私からは、第20回記念大会に向けての提言といたしますか、私の考えを少し話させていただきます。

先ほどの課長からの説明にもあったように、書道パフォーマンス甲子園は、愛媛県で成長したブランドとして「戦後愛媛のイノベーション30選」に選ばれたと聞きました。選定理由に「四国中央市の活性化の為に始めた活動が、予想を遥かに超える効果をもたらし、更には日本国内に書道ブームまで巻き起こす結果となった。」とありました。これは、この書道パフォーマンス甲子園が、当市だけでなく、広域的に認められているということであり、紙のまち四国中央市として、この事業を大切にし、今後さらに発展させていきたいものだと考えます。

現在のDVDによるブロック予選を始めたのが、第7回大会だと聞いておりますが、この方法により、書道に思いをかける全国の高校生の目が当市に集まるようになったと思います。しかし、この予選方法では、各校それぞれ単独の映像での出品であり、書道パフォーマンス甲子園にかけるその瞬間の高校生の姿は、本戦で当市の大会に出ない限り、お披露目されることなくうずもれていたと思います。それは、当然、各地域での盛り上がりにもつながっていなかったと思います。

例えば、野球やサッカー、ラグビーなどにおいても、予選大会を催すことで地域での関心が高まり、決戦への人の思いがつながり、それぞれの大会のブランド価値がさらに高まっています。

書道パフォーマンスもこのように予選大会を実施することはできないのだろうか、夢のような思いを持っています。これを四国中央市が自前で行うのは到底困難だと思っておりますが、全国には類似した大会が多く生まれていると聞きます。それぞれに母体が違い主催する意味にも違いがあると思っておりますが、そのような大会との連携により予選大会を実施することはできないものだろうかと思っております。

加えて、地元の川之江高校や三島高校が本戦に出場できれば、地域は大いに盛り上がるでしょうし、協賛くださる企業の方にも喜んでいただけたらと考えます。後輩もあこがれを抱くとともに入部への意欲も湧き、書道パフォーマンス熱も高まると思います。ぜひ地元高校にも頑張ってもらいたいと思いますが、もし出場できなかった場合にも、第20回大会などの記念大会には、地元枠を設け、発祥の地としての姿をお披露するというのも一つの方法かと思っております。

(市長)

他にありませんか。

(星川光代委員)

先ほど石川委員がおっしゃったように第20回記念大会を盛り上げるために各地で予選大会を開催することは、書道をしていない人に周知するためにもとても効果的だ

と思います。

平成 30 年に書道パフォーマンス甲子園振興室を設置して頂いたことにより、昨年もこのような混乱した中でも立派な代替事業ができたのだと実感しております。

しかし、記念大会を現状の体制で進められるのかどうかと言えば検討すべき課題はあるのではないかと思います。

現在は実行委員会があり、商工会議所や紙パルプ工業会、観光協会、そして各高等学校が参画し、また 170 名のボランティアで運営されていると聞いていますが、大半が当日のみの運営補助で、全体の企画段階から当日の運営までを担うことは非常に困難です。

20 回大会まであと 7 年ありますので、多くの課題があるとは思いますが、担当課だけではなく市役所各部局・民間事業者の手も借りるなど市を挙げた組織体制を整え、願わくは県をも巻き込んで「県知事賞」を設けるなど、格式のある箔のついた節目となる大会が開催されることを願っています。

(市長)

文化・スポーツ振興課長から意見はありますか。

(文化・スポーツ振興課長)

第 15 回大会、第 20 回大会とそれぞれ課題がありますが、今のようなご意見を実行委員会に諮りながら、未来像を描いていきたいと思っています。

まずは来年度、第 14 回大会をどのような形でできるのか、出来る限り実現に向けて協議を進めてまいりたいと思っています。

(市長)

選抜高等学校野球大会やインターハイなどが無観客で行われるのか、それとも大会自体を中止にするのか、年度が変わると明らかになっていくと思います。書道パフォーマンス甲子園も全国の高校生を対象とした大会ですから、他の大会の動向を見極めて判断しなければならないと考えております。

パフォーマンスは屋外でもできますか。

(文化・スポーツ振興課長)

時期にもよりますが、検討を重ねて、相当工夫しなければならないと思います。

(市長)

真夏であれば、屋外は熱中症の危険性が高いでしょう。

昨年は、全国的に様々なイベントや大会が中止になる中、当市における中止の判断もやむを得ないことでした。高校生の全国レベルの大会を 1 つの市で行っている例は多くありません。高知県のマンガ甲子園などは、これまでもお互いに参考にしているところもありますから、今後も実施手法など注視する必要があると思います。

表舞台に立つ書道パフォーマンス部員だけでなく、企画員として大会を陰で支える

地元高校生も含め、一人ひとりが大会に向けて努力する過程があつてこそ「書道パフォーマンス甲子園」は成り立っております。大会が2年連続で中止となると高校生は相当に落胆すると思います。

また、私は第1回大会から見てきていますが、地域の書道、書道半紙、紙産業に寄与できる大会になっていっているのかという、原点のようなものを常に念頭に置かなければならないと考えております。参加校の多寡のみで大会の成功を計れるものではありません。

それでは意見も出尽くしたようですので、これで令和2年度の総合教育会議を終了します。本日は大変ご苦勞様でした。ありがとうございました。

4. 閉会

【午後2時30分閉会】

署 名

署 名